

10月3日(火)

神のもとに戻る

聖書朗読 Iサムエル 25:18~35

正しい者が愛情をもって私を打ち、私を責めますように。それは頭にそそがれる油です。私の頭がそれを拒まないようにしてください。 詩篇 141:5

数年前、私が所属していた海軍のチャプレン(牧師)に、私の完璧なプロジェクトの進行の邪魔をする同僚に対してどれほど私が怒りを感じているかを相談したことがあります。その時、チャプレンは私にはっきりとこう言いました。「マイク、あなたの努力のすべての上に神の手の導きがあると思います。必ずうまくいきます。たとえ上手く行かないように見えても、あなたのペースではなく、主のペースでこのプロジェクトは実現されるはずですよ。」怒りが先にたち、霊的な目で物事を見られなくなっていた私は、このチャプレンの心穏やかな言葉で神の行いとタイミングに目を向けることができました。

怒りに燃えたダビデは、いまにもナバルを彼に属するものすべてを殺そうとしていました。この怒りに満ちたダビデをなだめるためにアビガイルがとった作戦は、彼を神のもとに戻らせることでした。アビガイルは、ダビデを守っているのは神であり、神はダビデに永遠の家を与え、彼の敵を倒し、彼に王位を約束し、そして時が来ればダビデを支配者として任命されるとダビデに伝えました。そして、アビガイルはダビデに“主のいくさ”を戦わなければいけないときに、あなたは愚か者の後を追っていると、ダビデの目を覚まさせました。神のもとに再び戻ることによって、ダビデの怒りは収まったのです。

私たちの人生にも”アビガイル”が必要です。気持ちを新たにする力が今日の聖書箇所にはあります。そして賢明な助言や心を穏やかにする言葉を知ることができます。神のもとに戻ることによって、希望とより良き未来へのビジョンを知ることができます。もしかしたら、あなたが誰かのアビガイルになり助言をす。神とかかわることによって、よりよい未来の希望とビジョンをつかむことが来ます。あなたは、困っている誰かにとってのアビガイルになる準備は出来ていますか。

讃美歌 II26

祈り 我が聖なる神、私の人生にもアビガイルをお願いします。そして、アビガイルのような心が私の心にも育ちますように。
イエス様のお名前でお祈りします。アーメン。

レニ・ロピケスト
テキサス州 サイプレス

10月4日(水)

失望

聖書朗読 I列王記 19:1~18

しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残しておく。これらの者はみな、バアルにひざをかかめず、バアルに口づけしなかった者である。 I列王記 19:18

期待の後に失望がやってくることがあります。その日までに完璧な計画を立て、手配を整えていても、計画通りに進まないことがあります。そんな時、私たちは失望し、落胆し、落ち込みます。

神にとって大いなる勝利を得た後にエリヤは失望を感じました。エリヤはカルメルの山上でバアルの予言者たちを集め、対決をし、勝利を得たのですが、イザベルに命を狙われる結果となってしまったのです。エリヤ逃げ、そして隠れました。エリヤは神に彼の命をとるようお願い、そして死を待ちました。しかし、神はエリヤが失望や、落胆に浸ることを許しませんでした。主のみ使いがパンと水でエリヤを強め、そして主と話すようエリヤを送り出しました。

私たちは、神の存在と仲間たちの存在についてはっきりと断言する主の声をぜひ聞きたいと思っています。そして、その声を聴いて神がそこにいることを私たちは感じなければなりません。

私たちそれぞれが、互いに励ましあい、そしてお互いに責任を負うために仲間たちの中に身をおかなければなりません。失望が永遠に続くことはありません。主は、私たちは雲の上の証人たちに囲まれることを約束してくださっています。

讃美歌 39

祈り お父様、エリヤのように私たちにはあなた様の声は聞こえませんが、みことばは日々私たちに語り掛けてくださいます。私たちの霊を強めてくださるために常に私たちのそばにいてくださることに感謝いたします。
イエス様のお名前によって。アーメン。

キム レギンガム
アラバマ州 アラバスター

10月5日(木)

エリヤの寝る場所

聖書朗読 列王記 第二 4:8~17

つぶやかないで、互いに親切にもてなし合いなさい。 I ペテロ 4:9

心地の良いベッド、そして数々のアメニティを提供してくれるホテルやモーテルでの宿泊は、旅行の時の楽しみの一つです。旅疲れをいやしてくれ全てのものに感謝します。手厚いもてなしをしてくれたシュネムの女とその夫に会うまでは、エリヤは粗末な宿に泊まっていたかもしれません。しかし、シュネムの女の家では、エリヤへのおもてなしが彼女の最大の関心事でした。そのおもてなしの心が彼女の夫に屋上に部屋を造らせ、そこに寝台と机といすとランプを、ただエリヤのためだけに用意しました。そしてこのエリヤの思いやりにあふれた友人は、一切の見返りを期待せずこれらのことを行いました。

エリヤは、この彼女のために何かしたいと思いました。王や軍勢の長に彼女のことをよろしく頼むことを提案しました。しかし、彼女は自分の民のうちに住んでいるから何も必要なものはありませんと答えました。そこで、エリヤのしもべであるゲハジは言いました。「彼女には子供がなく、そのお夫は老いています。」そこでエリヤは彼女を呼び、言いました。「来年の今ごろ、あなたはひとりの子を抱くでしょう。」その次の年、エリヤが言ったように彼女は息子を生まれました。親切やもてなしが必ずしもこのような奇跡的な結果を生み出すわけではありませんが、計り知れない喜びをもたらすのは確かです。

聖歌 424

祈り 親愛なる主よ、親切を尽くし、誰かを家に喜んで招き入れる心を私たちに
お与えください。

イエス様のお名前によってお願いいたします。アーメン。

スー レイサム

10月6日(金)

ヨシャパテの祈り

聖書朗読 II歴代誌 20:1~19

私たちの神よ。あなたは彼らをさばいてくださらないのですか。私たちに立ち向かって来たこのおびただしい大軍に当たる力は、私たちにはありません。私たちとしては、どうすればよいかわかりません。ただ、あなたに私たちの目を注ぐのみです。

II歴代誌 20:12

今日の聖書の一節は、イスラエルの王ヨシャパテの素晴らしい祈りの一部です。モアブ人とアモン人が神の民と戦おうと攻めてきていることをヨシャパテは告げられました。それを聞いたヨシャパテは恐れ、国民たちを集め、神の助けを求めました。

昨年、その年の自分にふさわしい祈りを探して、聖書に目を通していた時、今日の聖句である12節に行きつきました。そして12節はその年の私の祈りとなりました。この章の残りには、ヨシャパテ王の祈りへの応えが記されています。国民はこう告げられました。「恐れてはならない、、、これはあなたがたの戦いではなく、主の戦いからである、、、あなたがたは戦うに及ばない、、、主はあなたたがたと共におられるからである。」次の日、イスラエル軍の敵たちは同士討ちを始めお互いに殺しあったため、神の民は刀を抜く必要すらなかったのです!

自分の力を信じてしまうと、私達の努力は失われる

私達には正しい人はいない、ただ神が正しい方をお選びになった

その方はどなただろうか?それはイエス・キリストです

讃美歌 9

祈り 主よ、この世とこの世が抱える問題に飲み込まれていると感じる時があります!ヨシャパテと同じように私も何をしたらよいかわかりませんが、お父様、私はあなた様を見続けます!

イエス様のお名前によって。アーメン。

ブルース M. ヘンダーソン
ネバダ州 カーソンシティ

10月7日(土)

この世と闘う軍(サポーター)が必要です

聖書朗読 ネヘミヤ記 4:15~23

私たちの格闘は血肉に対するものではなく、主権、力、この暗やみの世界の支配者たち、また、天にいるもろもろの悪霊に対するものです。 エペソ人 6:12

若い女の子にはよくあることですが、我々の娘は友人からの影響を受けやすい子でした。彼女に有無を言わせず何かをさせるには、“してくれないなら、あなたのこと嫌いになるかも”こんな感じで脅すしかありませんでした。悪さをした彼女を叱るときも、この先、周りの影響でもっとひどいことになるかもしれないと心から心配になりました。

私はこの心配を母に打ち明けました。すると母は何も言わず、娘のために、娘の名前を口にしながら祈り始めました。母は娘が“意地悪な女の子”期である小学生、精神的に不安定になる中校生、そしていろいろとプレッシャーの多い高校と大学生とすべての時を通してずっと娘のために祈り続けてくれました。我が娘は強く、そして信仰深い女性に成長しました。彼女は今、おばあちゃんに感謝していると言っています。10代の子や大学生がやる馬鹿な事、勿論私もやりたかったけど、できなかった。だっておばあちゃんが私のために祈っていてくれていたから と娘は言います。

子供たちの心の葛藤は必ず起こるものであり、そして時に深刻です。あなたのサポーターのすべての兵士に協力を求めましょう。そして周りの人にもサポーターが必要であれば、そのときはあなたが助けつけましょう。

讃美歌 448

祈り お父様、私たちのうちに働いてくださり、あなた様に従いたいと思う気持ち、あなた様に喜んでいただけることをする力を私たちに与えてくださることに感謝いたします。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ジル ミムス マウディ
テキサス州 シャローウォーター

10月8日(日)

神の記憶を信じて

聖書朗読 ネヘミヤ記 13:14~31

私の神。どうか私を覚えて、いつくしんでください。 ネヘミヤ記 13:31

ネヘミヤは自身が神のためにそして神の民のためにしたことを並べ上げ、一度や二度ではなく、四度「私を覚えてください」と神に頼みました。ネヘミヤは本当に神が彼のことを忘れていたのでしょうか?そうではないでしょう。神に覚えてくださいと祈ることは、神がこの世に、いたるところに、そしてとりわけ誰かの人生の中に実際に存在することを認めているということです。

神に「私を覚えてください」とお願いすることは、私の人生、過去、現在、未来すべてを神にゆだねるということです。ネヘミヤは彼が行った良きわざを(14節)、他のものが行った悪行を(29節)を覚えていてくださいと、遠慮することなく神に願いました。さらに最後は、神にいつくしみと愛を求めました(22節)。

ある学者が書いているように、「神が彼を覚えていること」はネヘミヤの唯一の希望だったのです。「私を覚えてください。」それはペリシテの神殿の中でサムソンの口から出た祈りでした。(士師記 16:28)それは神に男の子を願ったハンナの祈りでした。(Iサムエル 1:11)それは多くの詩篇作者が求めた思いでした。(詩篇 25:7, 106:4)それは十字架上で犯罪者がイエス様に懇願したことでした。(ルカ 23:42)

「わが神よ、私のことを覚えて、わたしをお恵みください」この願いは、今でも一日を、一週間を、人生を終わらせるときの最良の祈りです。

讃美歌 495

祈り 我々すべての偉大なる神、お父様、教え通りあなた様を覚えていられますように。そして私たちを忘れずに、永遠に覚えてください。

イエス様のお名前によって。アーメン。

ポール L. ワトソン
ノースキャロライナ州 ダーハム